

## 大きくなる脳

色々と、刺激的な情報が流れてくる。なかには、それに振り回されてしまう人もいる。

政府は、5月8日に、この先認知症の人数が増え続けるという推計を公表した。2060年には、25年より170万人以上多くなり、645万人に上るだろうという。高齢者に占める認知症の人の割合である「有病率」が上昇する。と聞いて、「うちは認知症の家系だ。ひょっとして、自分も」などと、不安に押し潰されそうなのは、まだ35歳と若いEさんである。

おっと、早まるな。そんな人こそ知ってほしい情報がある。確かに、アメリカでも、認知症の有病率は高くなるという。だが、認知症で一番多いアルツハイマー病患者の全人口に占める割合「発症率」は減少傾向にある。なんと、1970年代より、10年毎に約20%も発症率は減少しているというのだ。

なぜか？脳の大きさの関係だという。最近のアメリカの研究で、人間の脳のサイズは年代を追うごとに徐々に大きくなってきていることが分かった。1930年代生まれの人に比べて40年後の1970年代生まれの人では、頭蓋内容積が6・6%、

海馬の体積が5・7%、脳表面積が14・9%も多かったという。脳のサイズが大きくなることで脳の予備能が高まる、それが認知症の発症リスクの低下に関係あるのではないかというのだ。

日本政府の公表では、認知症の発症率の推移は不明である。だが、推計の変化からみて、日本での認知症の発症率も低下しているように思える。もちろん、それが、脳のサイズの関係かどうかは分からない。というのに、Eさん。今度は、「頭がでかくてフラフラ歩くようになるのだらうっつっつ」などと心配をしている。そういう情報に過度に反応しては、脳の大きさに関係なく身が持たない。

( )石黒修三 しいしへろクリニック・脳神経

外科専門医…5/30北國新聞掲載( )